

仏像578体 詳細に

足かけ7年で歴史調査

吉井の仁叟寺 開山500年記念し寺誌

寺誌はA5判千八百八十五頁。「仁叟寺の概要」「文化財と寺室」や「年中行事」など二十一章から成る。特徴的なのは全体の四分の一、三百頁を割いている「仁叟寺の仏像」。民間研究所・仏造形研究所の仏像調査などを基に、同寺に残る百二十一件・五百七十八体の仏像を基礎資料にしてまとめた。調査の概要も写真をふんだんに使って紹介しており、仏像の中には室町時代中期の創建以前にさかのぼるものもあったとしている。

同寺は戦国時代の一五二二（大永二）年に現在地に再建されていること



吉井町神保の仁叟寺（渡辺啓司住職）が、開山五百年を記念した「天佑山 仁叟寺誌」を発刊した。足かけ七年を費やした寺誌は千二百ページにもなり、寺の歴史や文化財の解説だけでなく、地域にまつわる伝承やかかわりなど多岐にわたる内容になっている。

発刊した寺誌を手にする、渡辺啓司住職（右）と、編さん委員会事務局長の長男、龍道副住職

きつかけは同年、渡辺龍道副住職（三）の恩師で、前日本美術会議委員の外園豊草稲田大教授らが同寺に膨大に残る古文書の研究調査に訪れたことかという。

仏像調査中の昨年には、所蔵の千手観音像が中国大陸や朝鮮半島の仏像と似た特徴を持つことが判明。由来が記された縁起書には、多胡碑にまつわる伝説の人物「羊太夫」ゆかりの品が像の体内に納められているとあり、像の内部調査に期待が高まっている。

執筆には約三十人がかわった。二十七日には関係者が集まり、同寺で祝賀会を催すことになっているが、渡辺住職（五）は「当初考えていたのは記念誌的なものだった。それが次々とつながりを生んでこうした形に

なった。仏様の縁どしかならぬに頒布するといっ。龍道副住職（三）の恩師「言いつがな」と話し一冊六千円。問い合わせは仁叟寺（☎027・387・3080）へ。

仏像578体詳細に

足かけ7年で歴史調査

吉井の仁叟寺 開山500年記念し寺誌

吉井町神保の仁叟寺（渡辺啓司住職）が開山五百年を記念した「天佑山 仁叟寺誌」を発刊した。足かけ七年を費やした寺誌は千二百ページにもなり、寺の歴史や文化財の解説だけでなく、地域にまつわる伝承やかかわりなど多岐にわたる内容になっている。

寺誌はA5判千八百八十五ページ。「仁叟寺の概要」「文化財と寺室」や「年中行事」など二十一章から成る。

特徴的なのは全体の四分の一、三百ページを割いている「仁叟寺の仏像」。民間研究所・仏造形研究所の仏像調査などを基に、同寺に残る百二十一件・五百七十八体の仏像を基

礎資料にしてまとめた。調査の概要も写真をふんだんに使って紹介しており、仏像の中には室町時代中期の創建以前にさかのぼるものもあったとしている。

同寺は戦国時代の一五二二（大永二）年に現在地に再建されていることから、一九八九年から開山五百年記念事業を実施、事業の総仕上げとして寺誌を刊行することになり二〇〇一年に編さん委員会を発足させた。

きっかけは同年、渡辺龍道副住職（三一）の恩師で、前日本学術会議会員の外園豊基早稲田大教授らが同寺に膨大に残る古文書の研究調査に訪れたことからという。

仏像調査中の一昨年には、所蔵の千手観音像が中国大陸や朝鮮半島の仏像と似た特徴を持っていることが判明。由来が記された縁起書には、多胡碑にまつわる伝説上の人物「羊太夫」ゆかりの品が像の体内に納められているとあり、像の内部調査に期待が高まっている。

執筆には約三十人がかかわった。二十七日には関係者らが集まり、同寺で祝賀会を催すことにしているが、渡辺住職（五六）は「当初考えていたのは記念誌的なものだった。それが次々人とのつながりを生んでこうした形になった。仏様の縁としか言いようがない」と話している。

寺誌は二千部発行。残部が三百部ほどあり、一般にも頒布するという。一冊六千円。問い合わせは仁叟寺（TEL 027・387・3080）へ。